

時間学カフェ

第26回

日時：2022年6月22日（水）13時30分～

場所：吉田キャンパス

総合研究棟 3F フォーラムスペース

※zoom 配信も行いますので、そちらで参加を希望される方は
6月20日（月）までに jikann@yamaguchi-u.ac.jp へお申し込みください。

話題提供者

太田 聡 先生

（人文学部・教授／時間学研究所・兼務所員）

略語はこうして作られる

略語・省略形(abbreviation)は世の中に溢れています。略語は、語形の長さくるわずらわしさを避ける（すなわち、時間とエネルギーとスペースの節約の）ために作られることが多いですが、他の動機も色々考えられます。また、略語の種類・パターンは、例えば、「横浜 → ハマ」のように前を略す、「チョコレート → チョコ」のように後ろを略す、「ワードプロセッサ → ワープロ」のように複数の要素から一部を取り出してつなげる、「日本教職員組合 → 日教組」のように漢字を飛び飛びに抜き出して並べる、Parent-Teacher Association → PTA のように頭文字を取って並べる、「見せ棚 → 店」のようにもはや省略という意識がないものなど、実に様々です。

では、こうした略語の形成にはどのような法則・制約があるのでしょうか。略語は、ただ何となく元の語を短くしているのではなくて、ちょうどいい長さになるように調整されています。本発表では、特にアクセントの位置に注目して、可能な略語と不可能な略語がどのように決まるのかについて推論します。そして、日本語の略語だけでなく、英語の略語も取り上げて、そこにどのような共通性があるのかを紹介します。さらに、人の愛称(hypocorism)においても元の名前の省略形が用いられますが、そこにも日英語の類似性があることに触れます。

この世の、あらゆることからは時間と関係しています。

どこにどれだけ「多様な時間の姿」があるのか？

ヒトの時間、社会の時間、機械の時間、心の時間・・・

時間学カフェ

とは。。

気ままに、話の赴くままに、お茶を飲みながらお喋りしてみませんか？

色んな分野の人との交流から新しい発見があるかもしれません♪

先生、職員、学生、学外の方、どなたでも参加OK

研究の話でも、思いつきでも、突拍子のない考えでも、便乗発言大歓迎！

＊申込不要＊

＊参加無料＊

＊感染症対策のためマスク着用と手指消毒にご協力ください。

問合せ先

時間学研究所事務室

Tel:083-933-5848

E-mail: sh076@yamaguchi-u.ac.jp